

追悼

## 池田 高良先生を偲んで

SUYAMA Akihiko

陶山 昭彦

社会医療法人 寿会  
富永病院 内科・リハビリテーション科



池田先生の訃報にふれ、心より哀悼の意を表します。池田先生との出会いは私が鳥取大学在職中、がん登録藤本班に渡邊嶺男教授に随行参加させていただいた時期に遡ります。悪性リンパ腫の分類コードが移り変わっていた時期でもあり、池田先生が病理学者の立場からご意見されていた記憶があります。内科学講座から衛生学講座に鞍替えしたばかりの頃で、がん登録のイロハも理解できていませんでしたが、研究班での病理学者の池田先生の存在の大きさを感じておりました。岡本直幸先生が鳥取県がん登録をされていましたが神奈川に異動され、業務を引き継がせていただきました。一方で祖父江友孝先生と鳥取の三朝ラドン温

泉の放射線影響疫学研究に足をつっこんでいたこともあり、重松逸造先生の導きで長崎の放射線影響研究所に赴任し、そこで、藤本班で池田先生とともに参加されていた早田みどり先生と一緒に仕事するご縁となります。その頃、池田先生は長崎大学学長をされておられ、後には、長崎県立大学学長の職へとすすまれていくのですが、そのどちらの大学の学長室に池田先生をしばしば、がん登録がらみで訪問させていただいておりました。最初、藤本班でご意見されていた池田先生は、駆け出しの私からは病理学一徹な印象で近寄りがたかったのですが、学長室での池田先生は、とても気さくでにこやかな表情の内に厳しさを秘めていて、時折りジョークも交えた会話をさせていただき、頼れるお父様の存在でもありました。杵岐医師会へ出張採録のお願いがたがた、池田先生、早田先生と出張したことがありました。医師会会長先生がとても気さくで宴席設けてくださり、杵岐焼酎の杯を片手にほろ酔い池田節がはじけ、翌日は酒造倉を見学されお酒には目がないようでした。長崎のがん登録を牽引され続け、早田みどり先生にバトン渡したあとも、しっかり見守ってくだっていた池田先生の功績は偉大です。心よりご冥福をお祈りいたします。

